

## 会議録

会議の名称	令和3年度第1回野洲市子育て支援会議
開催日時	令和3年6月7日(月) 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	野洲市役所 本館2階 庁議室
<b>【出席者の氏名等】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・野洲市子育て支援会議委員 (◎:会長 ○:副会長) ※順不同 養父千恵子委員、二見由紀委員、桜井智子委員、内田智子委員、○水谷威彦委員、◎三上佳子委員、樽茶絹子委員 欠席4名(福永智之委員、山口桂子委員、八木芳良委員、小島章愛委員)</li><li>・事務局(市) 栢木市長 田中健康福祉部政策監 [こども課] 西村課長、宮崎主席参事、松村主席参事、鎌田課長補佐、岡本課長補佐、松野主査、中野</li><li>・傍聴者 1名</li></ul>	
<b>【会議の目的・主旨】</b>	
<b>議事</b>	
<b>(1) 第二期野洲市子ども・子育て支援事業計画の令和3年度計画について【資料3】</b>	
<b>【説明】</b> 事務局より資料3をもとに説明した。概要は以下のとおり。 <p>第二期野洲市子ども・子育て支援事業計画(以下「第二期計画」という。)は、令和2年度から令和6年度までの5か年計画であり、基本理念「豊かな自然とところを、すべての子の育ちのために」のもと、3つの基本目標を柱としており、それぞれに施策の方向性を定めている。この施策の方向性に基づく事業をそれぞれ実施していくことになるが、今回審議いただくのは、1. 幼児教育・保育の量の見込み及び確保方策、2. 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策における令和3年度の計画についてである。</p> <p>1. 幼児教育・保育の量の見込み及び確保方策では、資料3の2ページ(1)の表に幼稚園、保育所(園)利用の見込量と確保量を記載しているが、保育所(園)希望の0歳以外では見込量が確保量を上回っている。第二期計画では、幼児教育・保育の確保の方針として、利用調整等による確保や定員増による確保等を定めており、令和3年度の主な計画内容には小規模保育事業の導入に向けた取り組みを進めるとしている。</p> <p>2. 地域子ども・子育て支援事業(子ども・子育て支援法第59条に基づく13事業)の量の見込み及び確保方策では、資料3の3ページ以降に4つの事業で特記事項を示している。1つ目は「地域子育て支援拠点事業」で、野洲市子育て支援センターでは令和2年度に遊び場の面積を拡大しており、引き続き親子等が遊べる場を提供することである。2つ目は「妊婦健康診査」で、新生児聴覚検査の一部助成と多胎児妊婦への妊婦検診追加交付を実施することである。3つ目は「病児保育事業」で、令和2年度に体調不良児対応型において看護師の配置ができたことから、継続して安定した体制により実施することである。4つ目は「放課後児童健全育成事業(学童保育)」で、北野こどもの家では季節保育時に定員超過していることから春休みや夏休みに北野小学校の特別教室を利用することである。くわえて老朽化した施設の更新について検討を進める。</p>	
<b>【結果】</b> 第二期計画の令和3年度計画については計画的に取り組むを進めていくこととし、承認された。なお、質疑応答等の概要は次のとおり。	

## 1. 幼児教育・保育の量の見込み及び確保方策について

質 問：待機児童について、現在6月になったが状況はどのようなになっているか。

回 答：令和3年4月1日時点では40人の国基準待機児童数であったが、受け入れる枠が限られていることから、今後増えていくと見込んでいる。保育士の確保ができれば、施設的には受け入れ可能であるので、待機児童の解消が図られると考えているが、従前から保育士不足の課題がある。

意 見：年度途中の保育士確保というのは難しいと思われる。

事務局：人材確保のため募集は随時行っており、会計年度任用職員なら年度途中の採用もあるが、退職もあってなかなか増えない現状がある。

## 2. 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策について

質 問：一時預かり事業について、無償化の影響は実際どのようなものがあるか。

回 答：幼児教育・保育の無償化は令和元年10月からスタートしたもので、基本的には3～5歳の保育料が無償となるものである。これは保育園を利用されていても、幼稚園を利用されていても同じである。また本市の幼稚園預かりは18時まで利用できることから、利用ニーズが高いと思われる。こうしたこともあり、要件を満たせば無償で利用できる一時預かり事業の利用人数は増えており、無償化の影響とみている。

### (2) 小規模保育事業の導入について【資料4】

【説明】事務局より資料4をもとに説明した。概要は以下のとおり。

第二期計画の一部見直しにより、幼児教育・保育の量の見込みに対する確保方策は、幼稚園・保育所（園）の認可施設を中心とするほか、地域型保育事業により確保を図っている。

本市の現状として待機児童は1～2歳児に多く見られ、当該年齢児を抱える保護者の保育ニーズに応え、質の高い保育を提供するため、認可保育所の基準と遜色のない小規模保育事業A型を導入する。

募集地域は保育ニーズの高い野洲学区と北野学区を基本とし、2箇所を募集する。定員は1施設あたり19人で、内訳は第二期計画における確保量の整合から、0歳児2人、1歳児5人、2歳児12人を基本とする。応募資格は社会福祉法人及びその他の法人で、開所時期は令和4年4月1日とする。

今後のスケジュールは、日程は予定であるが、7月5日に募集要項を配布し公募を開始する。9月上旬には書類審査等を実施し、同月中旬に子育て支援会議への意見聴取を行う。同月末には事業者を決定し、10月以降は補助金申請や施設改修等を行っていく。

【結果】小規模保育事業の導入について順次事務を進めていくこととし、承認された。なお、質疑応答等の概要は次のとおり。

質 問：小規模保育事業を導入するにあたり、連携施設が必要になるが、どのように進められるのか。

回 答：小規模保育事業では基本0～2歳児を対象としていることから、3歳児からの受け入れ先が必要になり、連携施設の確保が必要となる。この連携施設については基本

は応募いただく事業者において確保することとしている。ただし困難である場合も考えられるので、公立園で3～5歳児の受け入れを検討し利用調整することも考えている。

#### 報告事項

#### (1) 令和3年度保育園・こども園・幼稚園・こどもの家の入所入園申込状況について【資料5】

→事務局より資料5をもとに報告した。概要は以下のとおり。

令和3年4月1日時点において、保育園・こども園（保育園部）では入所率100%で国基準待機児童数が40人、幼稚園・こども園（幼稚園部）では入園率57.1%で待機児童なし、こどもの家では入所率97.6%で待機児童なしとなっている。

質 問：保育園・こども園（保育園部）では、令和2年4月の国基準待機児童数は52人だが、令和3年4月の国基準待機児童数は40人となっている。この差は何が要因か。

回 答：就学前の子ども人口が減ってきているのが要因とみている。また新型コロナウイルス感染症の影響なのかは不明であるが、保育園を希望する方が減っていることも要因とみている。

※本報告事項は議事（1）第二期野洲市子ども・子育て支援事業計画の令和3年度計画の前に確認いただきたい内容であったことから、議事（1）に入る前に報告した。

#### (2) 令和2年度野洲市三方よし人材バンク等の実績について【資料6】

→事務局より資料6をもとに報告した。概要は以下のとおりで、質問等はなかった。

野洲市三方よし人材バンクは、市内の保育所、幼稚園及び学童保育所を就職先として、職業安定法に基づく無料職業紹介所として市が設置したもので、令和2年度は29人の就労につなげた。取り組みとしては、市広報、ポスター作成、新聞折込等による周知PRのほか、就職フェアへの参加、再就職支援研修会等を実施している。

また野洲市三方よし人材バンクの事業ではないが、人材確保を図る事業として、市内の園等で働く保育士等の子どもの保育料の一部を補助する事業や民間事業者が保育士のために借上げた家賃の一部を補助する事業も実施している。令和2年度の実績は、前者の事業は12件、後者の事業は1件である。

#### その他

今後の子育て支援会議について事務局より説明した。次回は小規模保育事業の実施事業者に係る内容を議題として9月中旬に、年度末には第二期計画の令和3年度実績を議題として令和4年3月頃に開催予定としており、今後日程調整の依頼をさせていただく旨をお願いした。

以上

#### 【提出された主な資料等】

- 資料1・・・野洲市子育て支援会議名簿（第4期）※次第裏面
- 資料2・・・野洲市子育て支援会議条例及び規則
- 資料3・・・第二期野洲市子ども・子育て支援事業計画の進捗管理
- 資料4・・・小規模保育事業の導入について
- 資料5・・・令和3年度保育園・こども園・幼稚園・こどもの家 入所・入園申込状況について
- 資料6・・・令和2年度 野洲市三方よし人材バンク等の実績について

